

山房春事 (岑参)

梁園日暮飛鴉乱る

極目蕭條三兩家

庭樹は知らず人去り尽くすを

春來つて還發く旧時の花

梁園日暮亂飛鴉  
庭樹不知人去盡  
極目蕭條三兩家  
春來還發舊時花

解説 春のある日、梁園の廢墟のあたりに遊んで、春の風情に感じて作つたものである。

語釈 ※山房||山の中の家。一説に、梁園の廢墟に建てられた開元寺をさすという。※春事||春興という意。※梁園||漢代、梁の孝王が、多くの賓客を集めて遊んだ別荘。※極目||見渡すかぎり。※蕭條||ものさびしいさま。※旧時花||昔ながらの花。

通釈 梁王の築いたという庭もすっかり荒れらすはてて、夕暮れどきには鴉が乱れ飛んでいる。見渡すかぎりものさびしく、ただ二、三の民家があるばかりだ。庭の樹は、昔の人がすべて死に絶え、時が移り変わっていることも知らず、春になれば、また昔ながらの花を咲かせている。